



令和2年度 いじめ防止標語コンクール

優秀賞作品

言葉遣い 少しかえれば みな笑顔

優秀賞は6作品あり、毎号紹介しています

青森県立八戸中央高等学校
1年 佐藤 瑠星
(※受賞当時の学校と学年です)

地域と学校がパートナーとして取り組む、地域学校協働活動の推進 ～学校を核とした地域づくりに向けて～

地域学校協働活動とは?

地域学校協働活動とは、地域住民、学生、保護者、民間企業等の幅広い参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

県教育委員会では、令和2年度から「学校を核とした地域づくり推進事業」を実施し、地域と学校が連携・協働した取組を支援しています。

地域学校協働本部構築モデル事業

地域学校協働本部とは、幅広い層の地域住民や団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制のことです。県教育委員会では、今後地域学校協働本部を整備する市町村のモデルとなる本部を構築する事業を、4つの市町村で実施しています。

<モデル市町村：黒石市、むつ市、鶴田町、風間浦村>

鶴田町の取組を紹介します

【地域学校協働活動運営委員会】

鶴田町では、地域と学校が連携して、子どもたちが夢に向かって生き抜く力と学力を育むことを目的として、令和2年度に地域学校協働本部を整備しました。

学校教育・社会教育関係者等がメンバーとなる運営委員会では、地域学校協働活動の企画及び推進とその評価を行います。

運営委員会で話し合った内容が、地域学校協働活動の実践につながっています。



運営委員会の様子

【鶴田町立鶴田小学校5学年 総合的な学習の時間】

鶴田小学校では、年間を通して3班(①野菜栽培、②りんご栽培、③獅子舞体験)に分かれて学習活動を行っており、どの班も地域の方が講師となって児童を指導しています。

学校と地域のコーディネーター役は、地域住民でもある「地域学校協働活動推進員」が担っています。講師からは「子どもたちの笑顔が活動の源」との声もあり、こうした取組は、学びの深まりだけでなく、地域づくりにもつながる活動となっています。



大根の収穫体験



りんごもぎ体験



獅子舞体験

①野菜栽培(大根の収穫体験)

農家の方からコツを教わり大根を収穫しました。途中で大根が折れてしまうこともありましたが、収穫する喜びを大いに味わいました。収穫した大根は給食の食材や調理実習に使用します。

②りんご栽培(りんごもぎ体験)

実すぐりや葉取り体験をしてきた愛着のあるりんごを大切に収穫しました。講師から仕事のやりがいや苦労などについて話を聞きながら、これまでの活動を振り返り、地域の産業への理解を深めました。

③獅子舞体験

西中野地区の伝統芸能であり、旧富士見小学校で取り組んできた獅子舞の体験を継続しています。西中野獅子舞保存会会長が指導にあたり、活動の成果は3学期の参観日に保護者に披露します。

地域と学校のコラボレーション研修

教員や地域学校協働活動推進員等、子どもたちの成長を支える多様な立場の方が、地域と学校をつなぐために必要なコーディネート力等について学ぶ研修会を、県内6地区で開催しました。

下北地区では、NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク事務局長の井上尚子氏を講師に迎え、「地域とともにある学校づくり～これからの地域学校協働活動を考えよう～」をテーマに講義・演習を行いました。

演習では、立場の異なる参加者がグループになって、地域学校協働活動を活性化する方法を探りました。



地域との連携を担う教職員研修

学校が地域と連携・協働する必要性や地域連携を担う教員としての役割について学ぶ研修会を、県内6地区で開催しました。

東青地区では、福島県本宮市立本宮まゆみ小学校校長の安齋宏之氏を講師に迎え、「学校課題の解決と『社会に開かれた教育課程』の実現」と題して講義を行いました。

参加者は、地域学校協働活動を充実させるためには、地域と学校が目標を共有することが大切だということを再認識しました。

